

古河市地域福祉計画
市民ワークショップ報告書

令和2年3月

古河市

目次

I. 市民ワークショップの概要	2
II. 各回におけるワークショップ内容	3
■第1回ワークショップ	3
■第2回ワークショップ	10
■第3回ワークショップ	17
■第4回書面ワークショップ	19

I. 市民ワークショップの概要

1. 市民ワークショップの目的

第3期古河市地域福祉計画策定において、市民の意見を反映させることを目的として実施する。

2. 市民ワークショップの全体スケジュール

市民ワークショップ全体スケジュールは以下のとおりである。なお、第4回については、新型コロナウイルスの感染防止対策により、書面上でワークショップを実施した。具体的には、ワークショップ参加者に書面を配布し、回答後、返送いただく手続きを行った。

日 時	テーマ	会 場
2月 5日(水) 19:00~21:00	第1回 【地域福祉とは、古河市の将来を描いてみよう】	健康の駅 視聴覚室1・2・3
2月12日(水) 19:00~21:00	第2回 【古河市の課題を抽出しよう】	健康の駅 視聴覚室1・2・3
2月19日(水) 19:00~21:00	第3回 【古河市の課題解決のためのアイデアを出そう】	健康の駅 視聴覚室1・2・3
書面ワークシ ョップとして 実施	第4回 【古河市の課題解決のためのアイデアをまとめよう】	郵送・回収

Ⅱ. 各回におけるワークショップ内容

■第1回ワークショップ

1. 第1回ワークショップの概要

日 時	2月5日(水) 19:00~21:00
会 場	健康の駅 視聴覚室1・2・3
テ ー マ	地域福祉とは、古河市の将来を描いてみよう
参加者数	43名

2. 第1回ワークショップの内容

(1) オリエンテーション

市民ワークショップの開催趣旨を理解し、地域のつながりの大切さを実感いただくための映像を投影した。

(2) 地域福祉に係る講演

市民ワークショップが効果的になされるよう、宇都宮短期大学准教授 小野篤司氏による講演が行われた。

(3) 市民ワークショップの実施

古河市の将来像を描くことをテーマに、市民ワークショップを実施、その際、以下の5つのテーマに基づいてグループを分けて展開した。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ①高齢者の支援 | ②障がい者の支援 |
| ③子ども・子育ての支援 | ④ひきこもり、マイノリティの支援 |
| ⑤我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展 | |

なお、将来像を描く際には、通常時と災害時という2つの観点で整理をすることとした。

※会場全体を2会場に分け、それぞれ①~⑤のテーマの島をレイアウトした。

(1つのテーマにつき2グループが結成され、計10グループでの実施となった)

※グループワーク時においては、職員が進行サポートとして参加した。

※上記2項については、第2回以降のワークショップにおいても適用された。

第1回市民ワークショップの様子①



第1回市民ワークショップの様子②



3. 第1回ワークショップの成果物

成果物は模造紙で作成された（全グループが5つのテーマについて考える場を設け、巡回しながら記述された）。各グループにおける成果物の内容は以下のとおりである。

【グループテーマ：高齢者の支援】

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導 ・給食サービス ・買物支援 ・日常の挨拶励行 ・サロン活動 ・色々の活動に参加し元気をもらう ・交流の場の確保 ・ワンコイン支援(土浦、阿見町など) ・要支援、要介護認定者以外の人の支援 ・見守り活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス出そうよ ・交通手段の確保 ・交通事故防止 ・ニセ電話注意 ・定期的な声掛けを(自治会の当番) ・男性の楽しめる場所 ・いつも笑顔でいられる ・自治会館をもっと活用してみる(趣味、サークルなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての自治会館に4Kテレビがある(オリンピック見せたい) ・各自治会へ趣味活動のプロ派遣 ・老人会が活性化するための補助金がある ・免許返納者はグルリン号が無償である(安全のため) ・高齢者宅を訪ねるとカギを開けてくれる。電話をしてニーズが把握できる(必要ないと言われない) ・相談窓口が分かりやすい、行きやすい ・外出手段確保「助成券」
<p>古河市の将来像 【高齢者の支援①】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・家具の固定を皆で進める。 ・備蓄する 		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互の助け合い ・要介護者の支援 ・地域での避難移動の手助けがある ・一人暮らしの方への連絡方法が確立している ・避難場所の設定(第5地区) ・災害時の広報が活用されている ・避難所の整備 ※毛布が十分に用意されている。 ・歩行ができても状況により、歩けなくなる場合もあり、車椅子移動等の準備がなされている 		
<ul style="list-style-type: none"> ・近所に声をかけて一緒に避難する(早ければ車で) ・家族以外の支援者がいる ・どこが安全かが明確である ・地域、自治会の中での連絡網が整備されている ・自分で考える避難計画、サポートしながら! ・非難の方法、移動手段が明らかである ・「自分の所は安全」と思わず、危機感を持って行動する ・直接指示が必要! 		

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者をいつも見守っていきたい ・いつでも安否確認ができる ・声を掛ける ・顔を合わせられる関係性 ・次世代交流 ・高齢者と子どもの交流 ・自分の終活をする ・パソコンの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内を自由に移動できる ・買物支援ツアー ・生きがい ・井戸端会議を作る ・男も家事はする(少しは!) ・男性の料理教室が充実している(お米とぎから味噌汁、初歩) ・引きこもりお父さんの外出支援がある ・小さなサロンが数多くある ・いきいきサロンが充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事会、おしゃべりサロンがある ・集まれる場所がある ・対話を大切にしている ・趣味の集まりがある ・趣味を持つことができている ・町内会に顔を出す人が多い ・お年寄りに合わせた非常食の料理教室がある(ペーストとか) ・野菜を作って近所に配る動きがある
<p>古河市の将来像 【高齢者の支援②】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者名簿の充実 ・医療、介護者の登録(データベース) ・避難する人を把握できるようにする ・要支援者の共有(同意は必要)がされている ・避難場所まで付き添ってくれる人がいる ・気にかけてくれる人がいる ・とりあえず行って無事を確認する、という地域のつながりがある ・声かけパートナーを作る(家と家一緒に逃げる) ・家族とともに逃げる(古河市の外へ) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所が確保できている ・避難場所が確認できる ・避難所のバリアフリー化がなされている ・災害時避難のパンフレットがある ・発電機などの情報がある 		
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のオープン化 ・隣同士声を掛けあう ・友達がいる ・役立つことが見つけられる ・まわりに気をかける! 		

【グループテーマ：障がい者の支援】

**古河市の将来像
【障がい者の支援①】**

通常時

- ・家に入ることはOKとする
- ・移動手段の充実
- ・地域の中で安心、安全に暮らしたい
- ・小中学校の支援(支援員増)
- ・近隣者交流をする
- ・何の支援が必要か知らせること
- ・知られることを拒否しない
- ・バリアフリー社会実現
- ・悩みが相談できる場所がある
- ・個人情報の提示
- ・働く場所がある
- ・接し方が分かる

- ・本人だけでなく、家族も含めたトータルサポートが充実している
- ・支援する希望を事前に聞いておくこと
- ・障がい者を理解する教育がなされている
- ・歩いて行ける交流の場がある
- ・手助けする人の確保がなされている
- ・障がい者からの要望を聞く場がある
- ・たくさんお給料をもらいたい、という要望が満たされている

- ・差別意識をもたない理解力を上げる
- ・地域の中で安心安全に暮らしたい。
- ・将来の生活に不安を感じない
- ・障がいを理解していける関係がある
- ・みんなと仲良く元気で過ごしたい
- ・子供から大人まで心と身体の障がい者への理解
- ・教育環境支援学校をつくる
- ・細かいことまで相談できる窓口がある
- ・人を運べる乳母車を用意
- ・健常者の教育、差別しないように

災害時

- ・理解者がほしい
- ・緊急のトイレ
- ・プライバシーの保護
- ・言葉の問題が克服できている
- ・生理的な処置方法
- ・非難する時の手助け
- ・障がい者偏見をもたない
- ・仕切られた空間の確保
- ・障がい者が気軽に話せる担当を作る

- ・情報の伝え方が明確である
- ・車椅子の方のトイレ
- ・避難所まで送迎してくれる人(サポート)がいる
- ・大きな声が出てしまっても大丈夫な避難所空間がある
- ・ご近所で情報交換する
- ・車椅子整備がなされている
- ・パニックになった時に落ち着ける部屋がある
- ・バリアフリーの避難所がある

- ・「私(自分)のことを理解してほしい」というニーズが満たされている
- ・安心して帰る場所(個室)がある
- ・簡単なベッドがある
- ・優先した救助がなされている
- ・安否確認の方法が明確である
- ・自治会での協力がなされている
- ・手話をできるようにしたりする環境が整っている

**古河市の将来像
【障がい者の支援②】**

通常時

- ・横断歩道と一緒に歩く、付き添う
- ・障がい支援が一番大切、命の共有がなされている
- ・気にとめてあげること
- ・声をかけ顔見知りになる
- ・仕事の支援
- ・健常者の力と交流がなされている
- ・障がいを理解できている(支援も含めて)
※色々な障がいがありすぎて、本当に障がいの言葉でくって良いのかわからない
- ・理解を深めるための学校教育がなされている
- ・福祉教育(子ども)がなされている

- ・障がいのある人、自助としてできる事、できない事の区分けをする
- ・障がい児を育てるママが孤立しない
- ・障がいの子を持つ親の相談場所がある(電話もできる)
- ・障がい者同志(家族)のコミュニティ作りがなされている

- ・障がいのある人のイベント参加が可能なまちづくりがなされている
- ・家族がオープンにして協力を得られる
- ・自分の障がいを人に伝えることができる
- ・障がいを知ってもらう機会がある
- ・応援者として力と勇気を常に持つことができる
- ・医療面の充実がなされている

災害時

- ・通常時から避難訓練がなされている
- ・トイレ、お風呂の心配がない
- ・災害時に必要な物は何かわかる
- ・落ち着ける場所の確保がなされている
- ・障がい者専用の避難所(スペース)がある
- ・障がい者用避難所の設置がなされている
- ・障がいによっては支援者になれる(例、聴覚障がい者)

- ・障がいのある人の情報提供がなされている(個人情報を含めて)
- ・情報公開がなされている
- ・関わり方が分かる
- ・災害時の交通手段の充実
- ・交通手段が確保されている
- ・どう搬送をするのか日頃より話がある
- ・災害時の支援方法を聞いてあげる
- ・隠しがちの場合もあるので、話して頂けるようコミュニケーションがとられている

- ・手助けの範囲内で!
- ・自分の身は自分で守りながら、お互いに声かけがなされている
- ・近所付き合いが大切になされている(そうでないと誰も助けてくれない)
- ・行政に頼らない生活(自助)ができています
- ・食事(ペースト、レトルト)の準備などがなされている
- ・一目でわかるような何かがある

- ・インクルーシブ(共生)
- ・全てにおいてバリアフリー、全障がいにおいて
- ・避難所に行ってみようツアーを組む

【グループテーマ：子ども・子育ての支援】

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用政策の確立(生活設計が確立) ・通学時の見守りを ・預ける場所の確保 ・預ける場所がほしい ・外で遊べる(安全に)場所を作る ・屋内で広々遊べる所がある ・子どもに声をかけやすい環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・母、父親が病気の時一時預かり場所 ・安心安全(不審者対策)見守り隊 ・安心して暮らせる街づくり ・病児保育園に行けない時にみてる人がいる ・教育を徹底している ・外で遊んでいる子供を多く見かける ・子ども同士の遊びたい場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の遊びを教えたい ・保育ママ(預かってもらう)仕事に行ける ・公園で思いっきり遊びたい ・近所に子どもが生まれたことがわかる ・近所のじじばばと交流、子育て教えて!! ・子ども会活動に現役じゃない世代の人の手伝い
<p>古河市の将来像 【子ども・子育ての支援①】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の子どもを見てあげる ・子どもを連れて行きやすい場所が欲しい ・バリアフリー ・笑顔で声かける(安心感) ・情報伝達、親~そして支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期避難時の心のケア ・避難する場所をよく教えておく ・落ち着いていられる環境 	

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場 ・子どもの居場所作り ・雨でも遊べる場所(子育て広場) ・犯罪に巻き込まれない(子どもが) ・小中学生も全て無償にして欲しい ・深夜いつでも医療が受けられる ・交通安全 ・交通安全対策見守り ・病児保育の充実 ・防犯パルを各自持つ ・防犯パトロールの組織をもつ ・旗当番を色々な人が行う ・下校時などの見守り ・危険箇所(交通、不審者)提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教育を受ける機会を設ける ・親子、家族と一緒に過ごせる場所 ・老人の集まる場所と子育てが一緒の場所 ・交流の場 ・老人の居場所 ・子育て時にしか使われない物をレンタル品を借りやすくする ・障害児への支援充実 ・ひとり親への支援 ・見守り支援 ・一人住まいの方の見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ママ友のLINEほどほどに ・ママ友の支援 ・待機児童の完全解消 ・幼稚園、保育園の充実 ・学童や保育園の充実 ・児童クラブの充実 ・保育士確保 ・子ども会の育成 ・男性の育児参加 ・子ども食堂にも来て下さい ・食事の大事さ ・子育て相談所(電話も対応可) ・子育て相談所 ・早めに避難勧告に従う ・おむつなどミルクの用意 ・家族で逃げ先を考える
<p>古河市の将来像 【子ども・子育ての支援②】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものストレスが蓄積されない ・避難状況の通知 ・乳幼児の避難所の設置 ・福祉避難所の設置(乳幼児も含めた) ・泣き声などの心配、別部屋を用意 ・赤ちゃんの泣き声に配慮した避難所 ・災害時でも遊べる場所が必要 ・ゲーム中止して遊びを中心 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄物資の充実 ・乳児用品の不足が生じない ・母親の話し合う場 ・安否確認 ・避難の仕方 ・プライバシーの保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳場所、おむつ交換の場 ・とにかく災害時は、子ども優先 ・汚物の処置場所、方法 ・災害時の状況をわかりやすくする ・緊急時どこに連絡して避難するのか? 近所に貼る。 ・アレルギーへの理解

【グループテーマ：ひきこもり、マイノリティの支援】

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引きこもり、親などとの接触 ・対応へのアプローチ ・相談できる場所を知っている ・相談機関の紹介がなされる ・家族の相談窓口、話のできる場所がある ・古河市保健所引きこもり外来が充実している(相談日がある) ・早期発見がなされる ・見守りが充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパーの養成がなされている ・尊敬できる ・話し相手が数多くいる ・近所の人には声かけして、一緒に行動する。 ・交流の場への参加がなされている ・まず行動にうつす ・常日頃から言葉が通じるようにしておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族がSOS発信、聞く人を確保 ・家族との関係が良好である ・気持ちをわかちあえる人間関係が構築されている ・受け入れられる関係がある ・あいさつ運動をしている ・通学路の近くでは、子供達に良く声かけられている ・高齢者等の支援に入っている人が、その家族にしたら声をかける ・情報交換がなされている ・ピアサポーター当事者同士の経験を話す場がある
<p>古河市の将来像 【ひきこもり、マイノリティの支援①】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れられる環境がある ・引きこもりの人を誘導する ・災害時に男女共通のトイレがある ・プライバシーに配慮したトイレが欲しい ・個性を認め合える ・声掛けがなされている ・救援者は誰かが分かる ・早めに知らせることができる ・どこへ連絡すればよいか明確である 		

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的目標を持つことによって、話し合いの中で元気づけられるのかも ・一人の人間として役立つことは何か、やれる事をしてもらえる様に ・役立てる一人一人になる事で元気になるのでは ・どこにどんな人がいるか把握することが大切。災害、ひきこもりを守るために ・ひきこもり、話を聞いてあげる。あたたかい思いがける 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人と食事がなされている ・人には対話が必要 ・友人を作るきっかけ作りがある ・外出する機会をサポート ・外に出るきっかけ作りがある(何が好きかを知っておく) ・楽しい嬉しい事できるよ、おしゃべりできる機会が多くある ・引きこもりの仲間作りの会がある ・心の窓を開けてもらえるサポートがある ・ひきこもりでも誰かとつながるSNSがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階ふんでの声かけ ・ひきこもり者を医療につなぐ ・子どもの時からの付き合いがなされている ・ひきこもりの見つけ方が明確になっている ・情報がわからない、という事態が生じない ・差別しない ・職業訓練の支援 ・就職活動の支援 ・支援団体の拡充 ・ひきこもりを持つ親の集いがある ・家族に対するサポート ・家族が相談できる窓口の情報がある
<p>古河市の将来像 【ひきこもり、マイノリティの支援②】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の対応がしっかりしている ・避難するのか？しないのか？が分かる ・高齢者のように台帳的な物がある ・引きこもりの人を事前に把握できている ・プライバシーもあるが、対象者がわかるようになっている ・ご近所の助けがある ・家族と一緒に過ごせる ・家の中は楽しくせず、外で楽しく過ごす ・車移動が大変。災害時に手助け必要。 		

【グループテーマ：我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展】

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の困り事を共有していく ・困っている人に気軽にお手伝い ・5人位の集まりで各々自宅で困りごとを手伝っている(掃除、片付けなど) ・近所のお年寄りへの声かけ、見守り ・アパート入居者などと交流できるようになっている ・公民館などの集会場利用、コミュニティが充実している ・手作りの会で男女得意な技を披露する ・おしゃべり女子会、男子会、クック女子会、クック男子会といった場が充実している ・みんなで会って酒や食事をする ・皆で歌を歌いコーヒーを飲む 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまで集える場所がある ・子どもとお年寄りが一緒に過ごす会がある ・高齢者と子どもの交流がなされている ・昔遊び(紙てっぽう、メンコ)子どもたちに伝える ・高齢者の役割作りがなされている ・子ども全員が子ども会にできる環境作りがなされている ・サロンが数多くある ・自治会の各班内にサロン等の設置がなされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康作りを兼ねたウォーキングの会(格好の良いユニフォームを作る)がある ・体幹力をみんなで作る、見守りを! ・「はいかい(老人)」チームでウォーキング ・防犯パトロールを多くする ・災害時の道路についての情報が分かる ・地域ぐるみのお祭りの参加がなされている ・町内会でのイベント機会が作られている ・向こう三軒両隣り
<p>古河市の将来像 【我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展①】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のオープン化がなされている ・自分から積極的な挨拶が普段からなされている。(災害時に役立つ) ・避難所の備蓄物資の充実 ・防災訓練の実施、地域力と連帯感の醸成がなされている ・自助と共助がなされている ・シミュレーションが実行されている ・水位シールが貼られている ・グループのまとめ役を作り、意思固めがされている ・いち早い非難がなされている(古河市は水の中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網が作成されている ・各家庭まで避難情報が伝わっている ・古河市は四方面が河であるが、どこへ行けばよいのかが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「備蓄チェックの日」を決めて、工夫大会をする。 ・介護医療の必要な方の把握がなされている。 ・お隣同士で声を掛け合っている

<p>通常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園が欲しい(集いの場) ・お茶を飲みに行く ・病気をしている人を知る ・どこに誰(乳幼児、障害、高齢者、どんな人)がいるかが一目でわかる。 ・地域のまとまりが良い。 ・毎日楽しい ・皆が参加できる自治会作りがなされている ・挨拶ができる市民である ・近所との交流がなされている ・リーダーの育成がなされている ・住民教育の定例化がなされている(半強制的に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの仕分け手伝いがされている ・ゴミ出しお手伝いがされている ・行政区の班が小分けて編成されている ・行政区に入ってなくても参加できるところがある ・現在の行政区とはまた違う形になっている ・全員で行政区に入る ・行政区にほとんど入っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの声かけがなされている ・子供を育て子供を残す。安心の地域。 ・サロングループ作りがなされている ・多胎児、母子の支援がある ・安心して子供を育てられる周りの人がサポートがある ・移動手段ができる(免許返納) ・おでかけ手段が充実している(バスで不便さを感じない)
<p>古河市の将来像 【我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展②】</p>		
<p>災害時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声をかけながら避難できる(一人暮らしの高齢者) ・なんちゃらマップがある ・救助しなければならない人を掌握できている ・自治会内での協力体勢がある ・AEDの設置地域バランス24時間コンビニ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の確保がされている ・身近な避難場所がある(避難場所が分かる) ・地域で避難所を作る 	

■第2回ワークショップ

1. 第2回ワークショップの概要

日 時	2月12日（水）19:00～21:00
会 場	健康の駅 視聴覚室1・2・3
テ ー マ	古河市の課題を抽出しよう
参 加 者 数	38名

2. 第2回ワークショップの内容

第1回にて出された将来像に対して、古河市の現状はどうであるのかをイメージし、その共有を図るため、レゴブロックを用いながら進められた。5つのテーマに基づくグループ分けは、基本的に第1回と同様とした。

レゴブロックで表現しグループメンバー間で共有している様子



レゴブロックによる共有の後、古河市においてたりなきようなことを洗い出し、そこから、古河市における課題を抽出した。

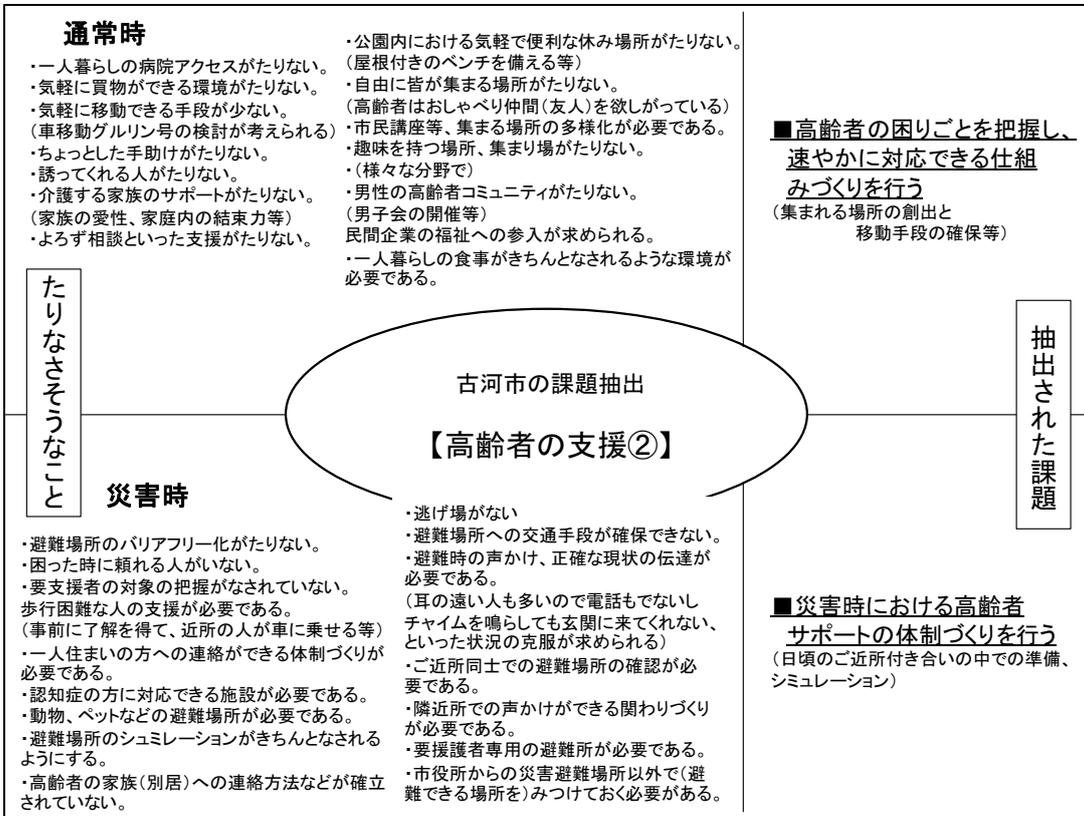
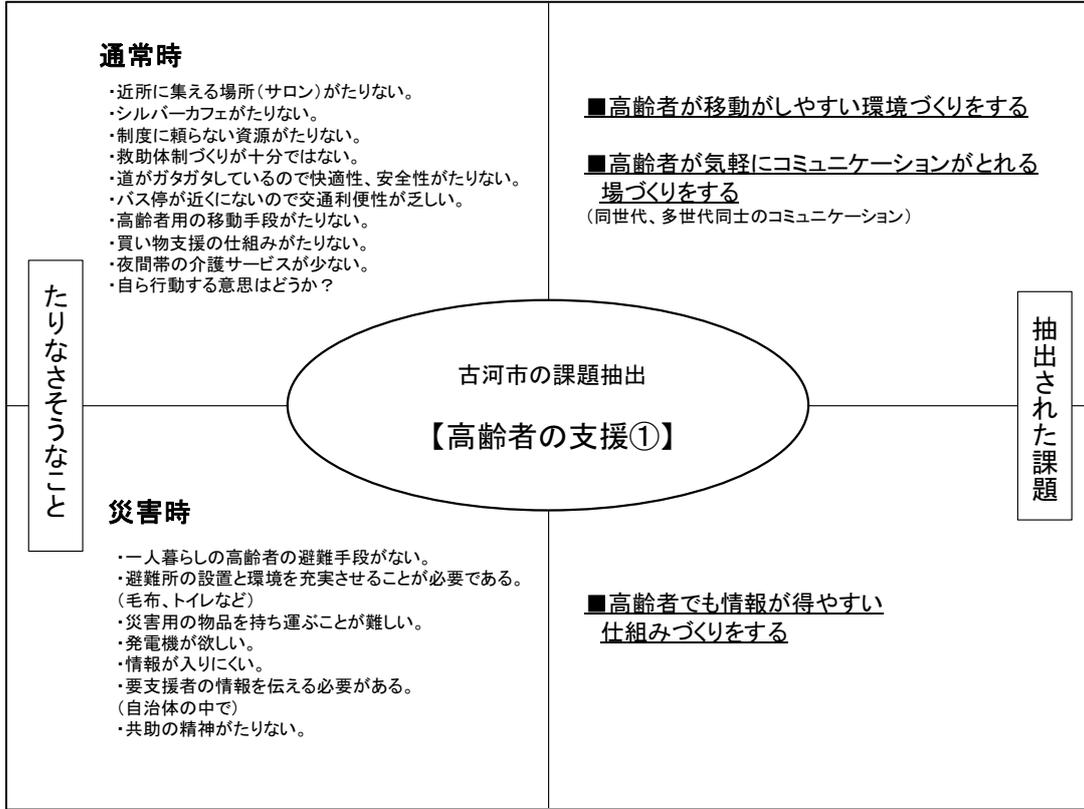
課題抽出のためのグループワークの様子



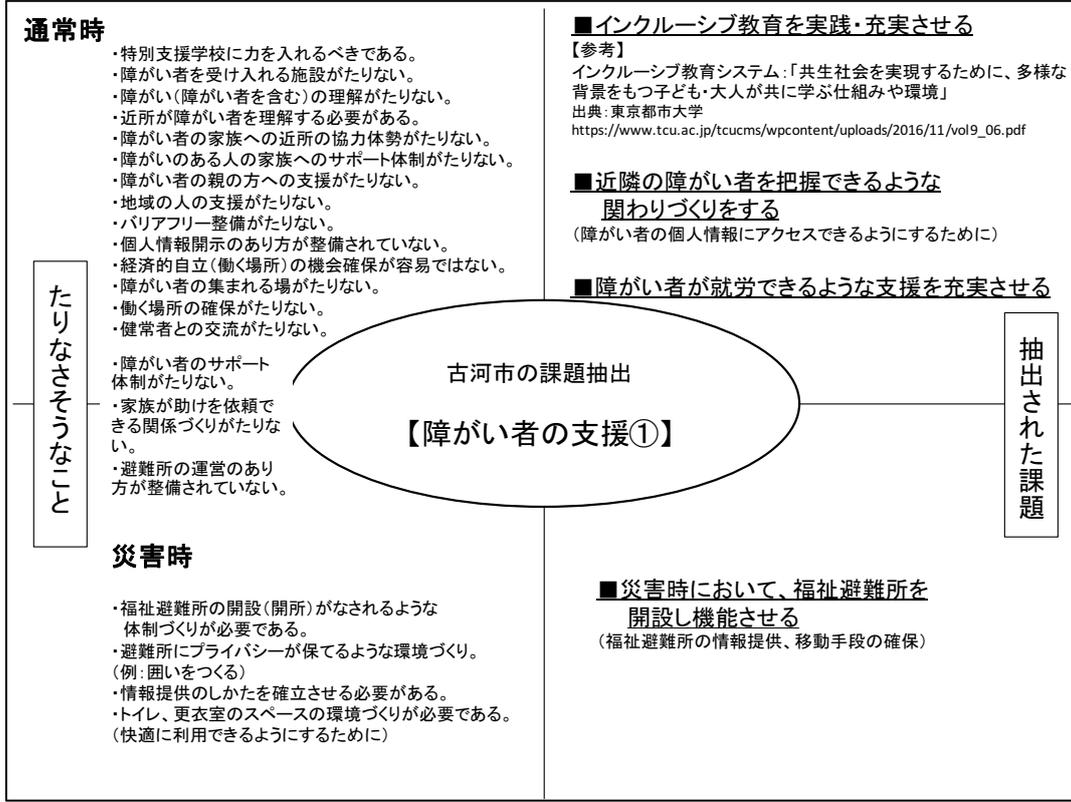
3. 第2回ワークショップの成果物

成果物は模造紙で作成された（全グループが5つのテーマについて考える場を設け、巡回しながら記述された）。各グループにおける成果物の内容は以下のとおりである。

【グループテーマ：高齢者の支援】

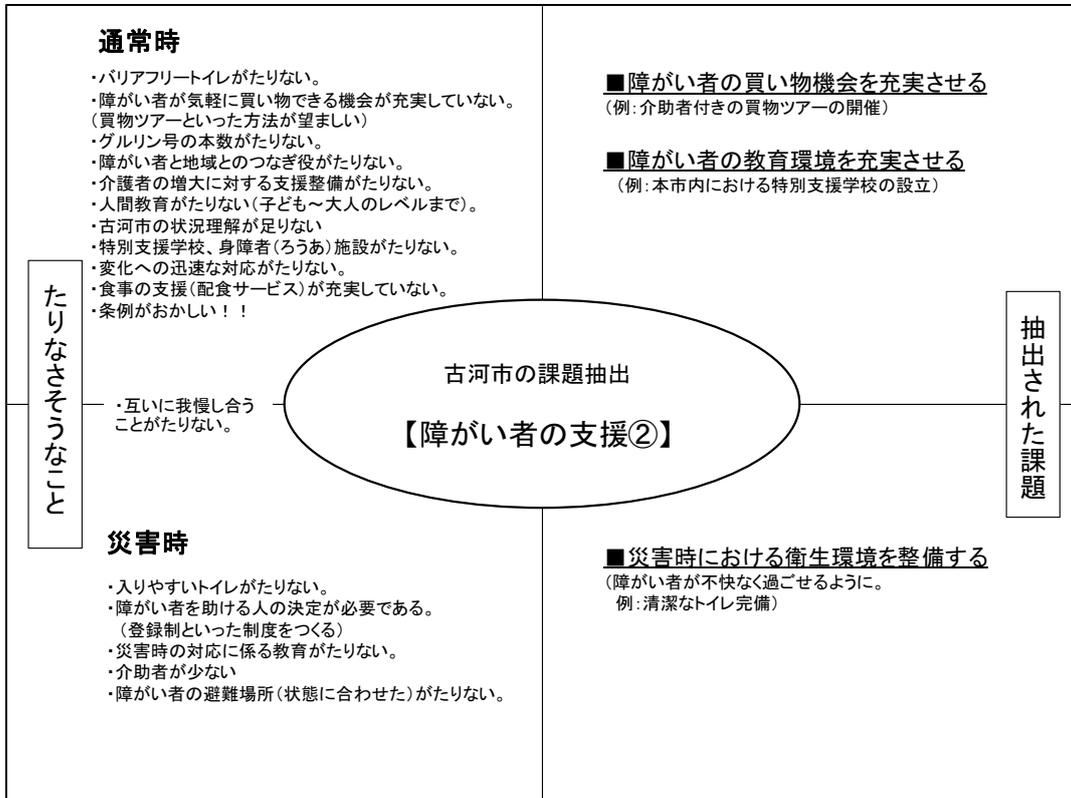


【グループテーマ：障がい者の支援】



たりになさそうなこと

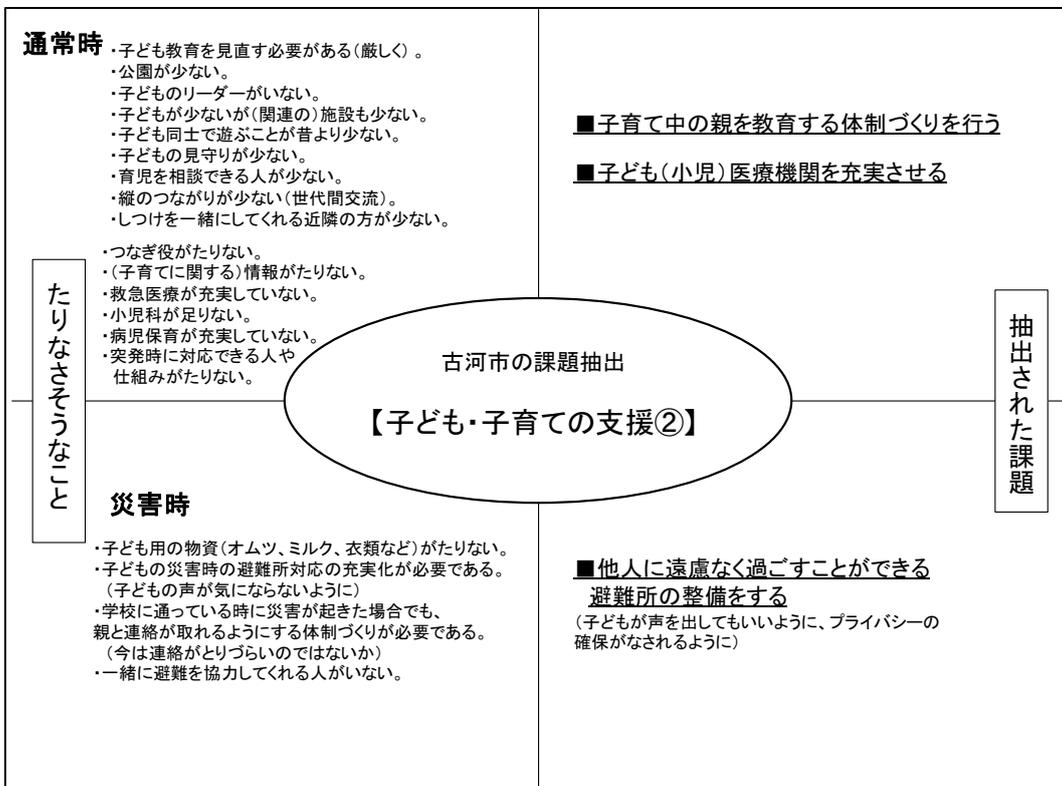
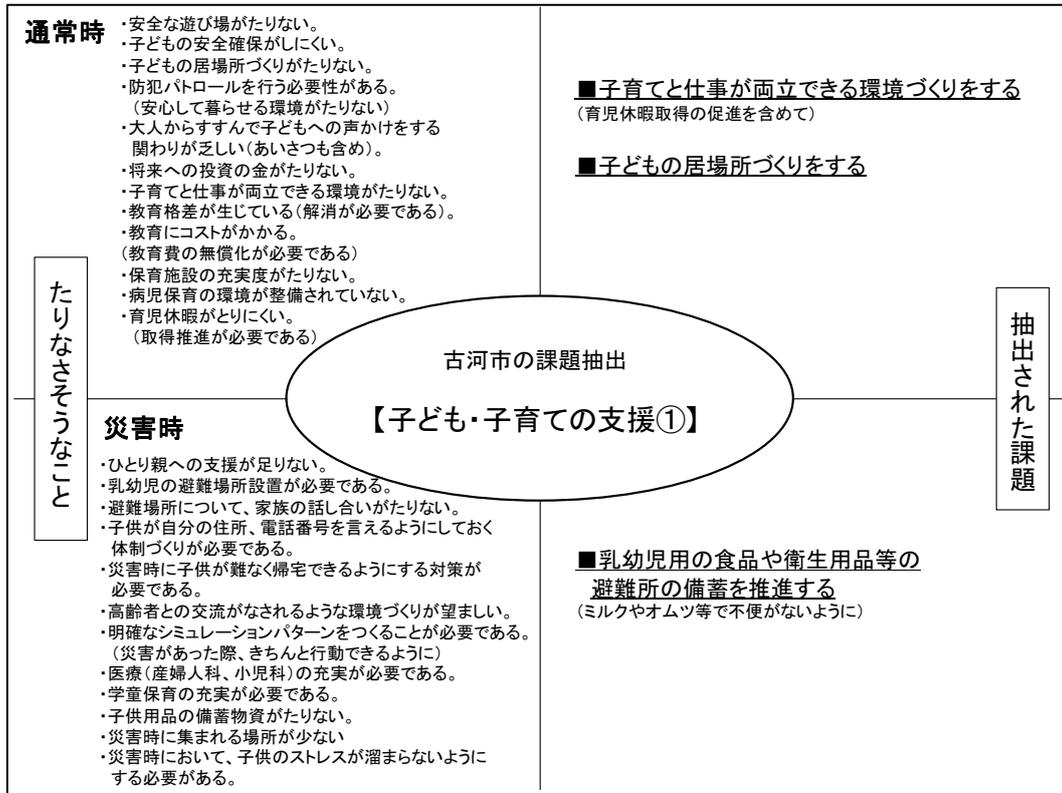
抽出された課題



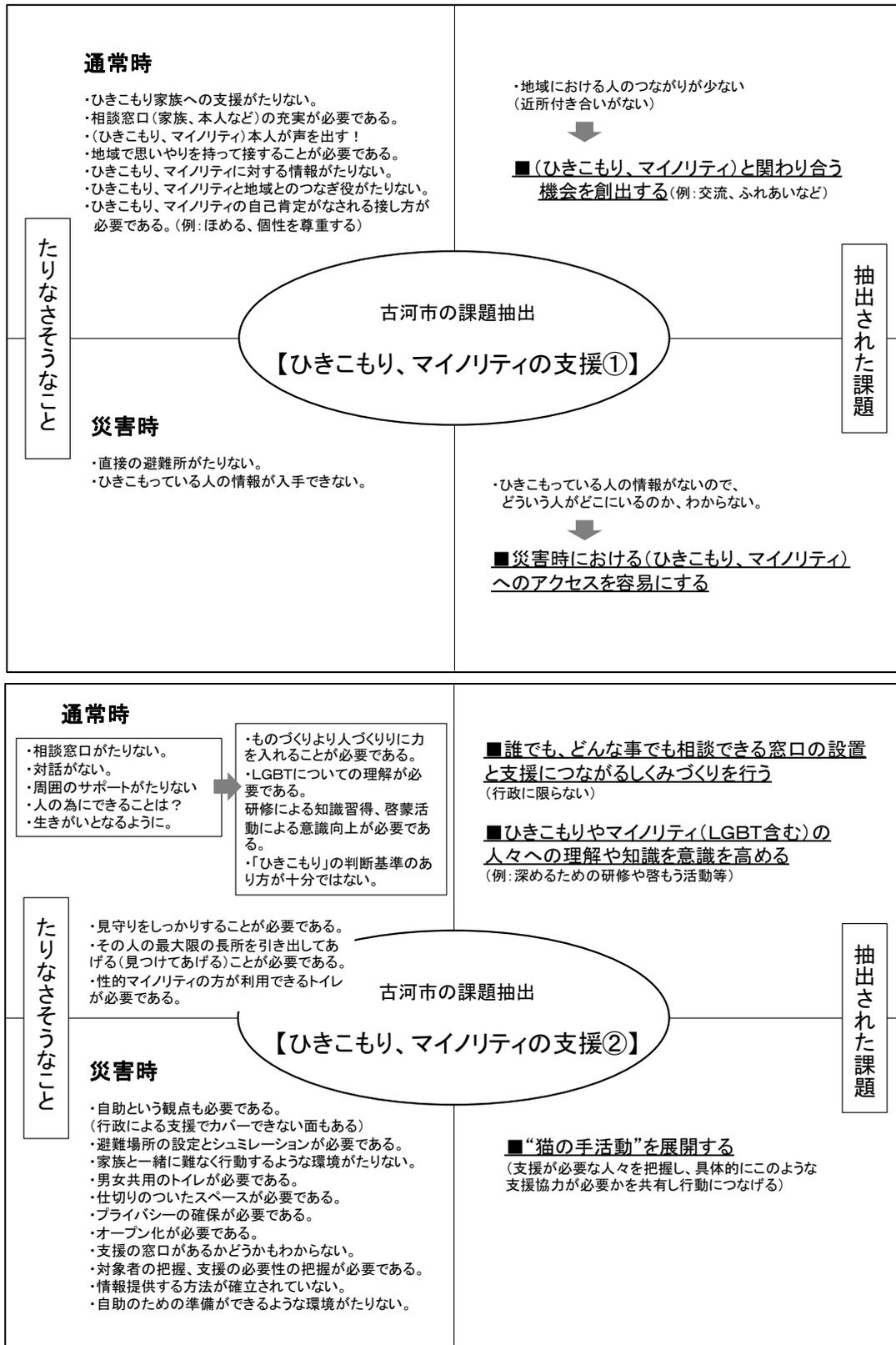
たりになさそうなこと

抽出された課題

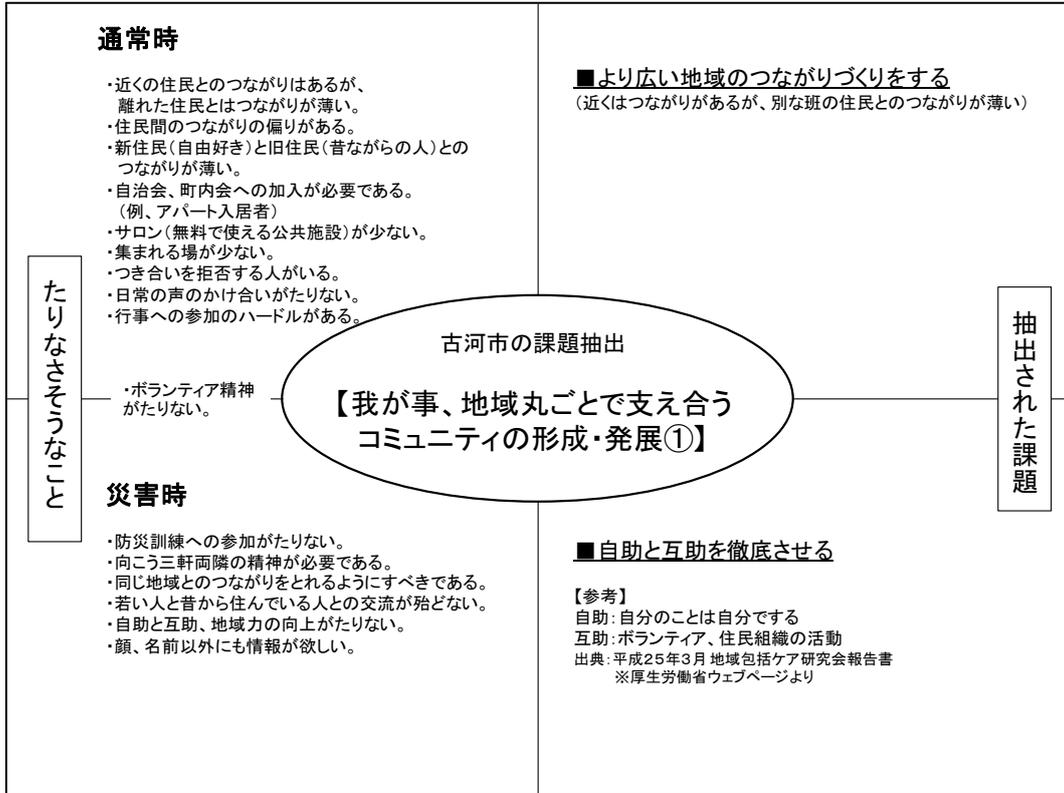
【グループテーマ：子ども・子育ての支援】



【グループテーマ：ひきこもり、マイノリティの支援】

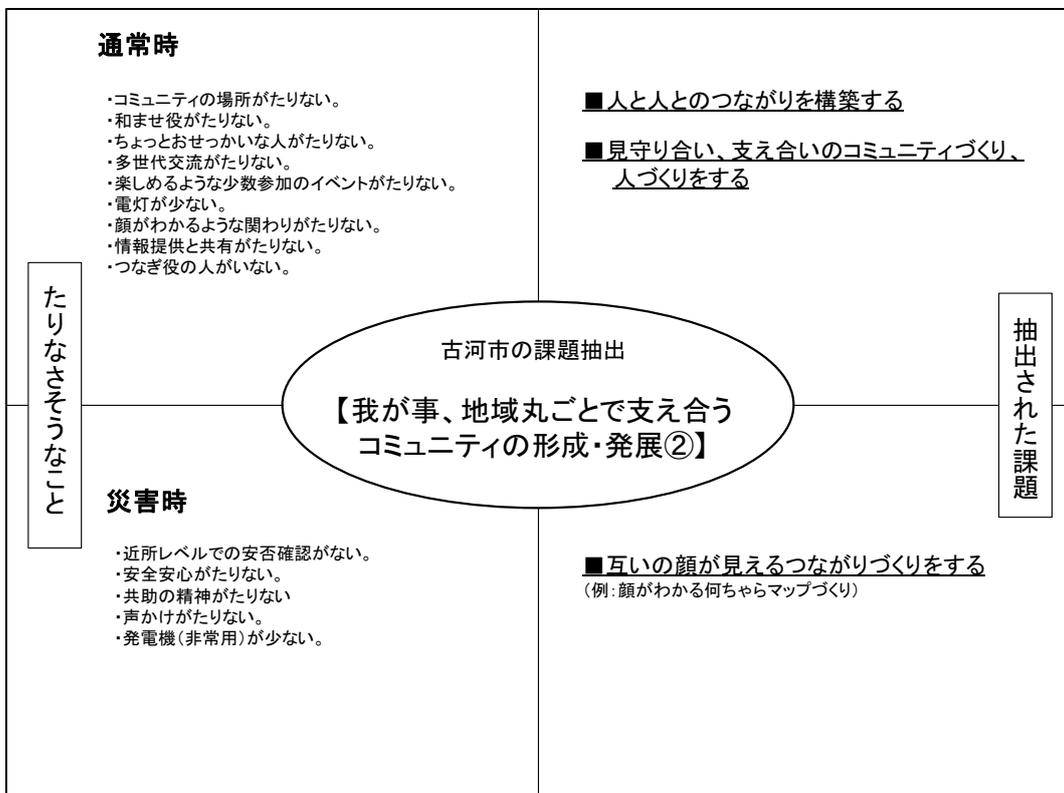


【グループテーマ：我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展】



たりなさそうなこと

抽出された課題



たりなさそうなこと

抽出された課題

■第3回ワークショップ

1. 第3回ワークショップの概要

日 時	2月19日（水）19:00～21:00
会 場	健康の駅 視聴覚室1・2・3
テ ー マ	古河市の課題解決のためのアイデアを出そう
参 加 者 数	33名

2. 第3回ワークショップの内容

第2回にて抽出された課題を解決するためのアイデアをグループワークにより創出した。その際、グループワークが効果的になされるよう、事前に、視点を広げるための演習を行った。5つのテーマに基づくグループ分けは、基本的にこれまでと同様とした。

演習の様子



また、取り組む課題については、グループ間で話し合いながら複数の課題が選定された。
(全 10 グループで課題を分担し合いながらアイデア創出に臨んだ)

話し合いながら課題を選定している様子



3. 第3回ワークショップの成果物

成果物は模造紙で作成された（全グループが5つのテーマについて考える場を設け、巡回しながら記述された）。

※各グループにおける成果物の内容は第4回と合わせて掲載。

■第4回ワークショップ

1. 第4回ワークショップの概要

日	時	書面によるワークショップに変更	
会	場	健康の駅 視聴覚室1・2・3	
テ	ー	マ	古河市の課題解決のためのアイデアをまとめよう

本来であれば、2月25日（火）19:00～21:00において実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染対策により、書面ワークショップに変更された。

2. 書面ワークショップの内容

第3回にて創出されたアイデアを「行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア」「市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア」に分類し、前者については、特に重要であると思われる項目1つにチェックマークを、後者については、課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマークをつけてもらった。

3. 書面ワークショップの方法

市民ワークショップ参加者にアイデア評価のためのシートを郵送、記入後に担当課へ返送いただく手順をとった。なお、郵送に際しては、同シートのほか、自由意見シート（5つのテーマのほか、「その他、社会福祉について」という欄を設けた）が同封された。

- ・アイデア評価シートの回収数…43票
- ・自由意見シートの回収数…19票

4. 書面ワークショップの成果物

5つのテーマそれぞれにおける課題解決策に対する評価結果（チェックマークを集計）が記されたシート、自由意見シートに記述された内容一覧が作成された（次頁以降に記載）。

高齢者の支援①

【通常時】

- 課題：高齢者の困りごとを把握し、速やかに対応できる仕組みづくりを行う
（集まれる場所の創出と移動手段の確保等）

○行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
11	25.6	ぐるりん号等を活用する（集合所等を経由する）。
9	20.9	集会所（公民館）等利用しやすくする。
8	18.6	無料の集会所またはスーパーマーケットのフードコーナー等商店と連携する。
8	18.6	困りごとの伝達手段を構築する（例、郵便事業の活用）。
5	11.6	困りごとのアンケート実施を実施する。
5	11.6	見守り電話の設置をする。
0	0.0	高齢者を学校等に呼び、困っている話を行う。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
26	60.5	移動手段のためのボランティアを確保する（有償でも）。
18	41.9	自治会全体が地域の高齢者を把握しておく。
13	30.2	老人クラブの育成強化を行う（いきいきサロンを含む）。
12	27.9	ゴミ捨てお助け隊を結成する。
5	11.6	（困りごとの）想定パターンを作って思考する。
1	2.3	協議全体をしっかりと機能させる。

【災害時】

■課題：災害時における高齢者のサポートの体制づくりを行う (日頃のご近所付き合いの中での準備、シュミレーション)

○行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(1つまで)

数	%	アイデア内容
14	32.6	DWA T (災害福祉支援チーム) を結成する。
13	30.2	救援車の巡回など、災害時にぐるりん号を活用する。
9	20.9	災害時要援者名簿を作成する (個人情報保護が前提)。
5	11.6	連絡が取れるツール (スマホなど) を無料配布する (着信のみの活用で)。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな (市民としての役割が果たせそうな) 項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(2つまで)

数	%	アイデア内容
21	48.8	(避難する際) 誰が誰を連れていくか事前に決めておく。
20	46.5	避難訓練を行う (ご近所単位で)。
19	44.2	自助を考える (行政が手を差し伸べることは困難なので自分たちで話し合う場を持つ)。
7	16.3	ペットの避難場所を確保する。

高齢者の支援②

【通常時】

■課題：高齢者が移動しやすい環境づくりをする

○行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
13	30.2	目的地に行くための交通手段を確立する。
10	23.3	ぐるりん号の増便と巡回コースの多様化を行う。
8	18.6	ぐるりん号の停留所を増設する。
7	16.3	福祉タクシーを導入し、家のそばから買い物に行けるようにする。
5	11.6	料金のかからない交通手段を実現させる（補助など）。
4	9.3	交通手段の無料化を行う。
2	4.7	道路を段差が少なくなるよう整備する。
1	2.3	スイミングスクール等のマイクロバスを活用し、小さい範囲、コースでの移動手段を作っていく（ぐるりん号では足りない部分）。

■課題：高齢者が気軽にコミュニケーションがとれる場づくりをする （同世代、多世代同士のコミュニケーション）

○行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
15	34.9	学校の中に高齢者のサロン室をつくる。
7	16.3	ケアマネジャーを80歳以上対象にする。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
16	37.2	歩いて行ける範囲に常時開いているコミュニティの場所をつくる。
14	32.6	活躍できるところ（どんなことでもOK）をつくる。
12	27.9	子ども食堂とシルバーカフェを併設（隣設）する。
12	27.9	高齢者のボランティアを募る。
10	23.3	幼稚園や保育園に高齢者が集い、世代間交流もできる場をつくる。
5	11.6	趣味、学習講座を開設する（行きたいときに気軽に参加できるように）。
3	7.0	自治会議所などの利用ができる。
2	4.7	運動会に高齢者を誘って一緒に楽しむ。

【災害時】

■課題：高齢者でも情報が得やすい仕組みづくりをする

○行政への要望が強いと思われる課題解決のためのアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
15	34.9	F M局の開設・運用とラジオの支給を行う。
9	20.9	災害時に避難トリアージ制度を設ける。
7	16.3	C A T Vのデータ放送を活用する（加入料等の助成）。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
26	60.5	地区別に避難できる場所を作っておく（市で決められたところは遠すぎる場合が多い）。
20	46.5	ご近所の方への依頼（災害時に何をして欲しいか）をきちんとしておく。
11	25.6	避難所を地区ごとに知らせる仕組みをつくる。

障がい者の支援①

【通常時】

■課題：障がい者の教育環境を充実させる（例：本市内における特別支援学校の設立）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
24	55.8	学校に支援員を増やす。
13	30.2	子どもから大人までの共同教育を行う。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
16	37.2	空き教室を再利用する。
14	32.6	共同教育を行う。※（健、非）分けての実施をしない。
11	25.6	教育者を育成する。※評価を高めた扱いとする。
7	16.3	学校教育のテーマとする。

■課題：障がい者の買い物機会を充実させる（例：介助付きの買い物ツアーの開催）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
22	51.2	出張販売車の配備をする。
10	23.3	障がい者年金を充実させる。※チケット支給制度を実施する。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
30	69.8	ボランティアを充実させる。
19	44.2	外出する機会を拡大する。
3	7.0	バスツアーの企画を行う。

【災害時】

■課題：災害時における衛生環境を整備する

（障がい者が不快なく過ごせるように。例：清潔なトイレの完備）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
33	76.7	障がい者トイレを増設する（移動用含む）。
7	16.3	消毒を強化する（感染症対策）。
2	4.7	糞尿の固形化により処理を簡易化させる。臭いを減少させる。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。

数	%	アイデア内容
23	53.5	おむつ、尿漏れ下着を配備する。

障がい者の支援②

【通常時】

■課題：インクルーシブ教育を実践・充実させる

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
21	48.8	教育現場で障がい者教育を行う。
14	32.6	市民の要望に応じた取り組みをしてもらう。
1	2.3	保育士を確保する。
1	2.3	個人情報保護法を無くす。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
32	19	障がいに対する正しい理解をする。
14	7	積極的な障がい児の受け入れを行う。
5	2	他人に頼らない自分をつくるような支援をする。

【通常時】

■課題：近隣の障がい者を把握できるような関わりづくりをする （障がい者の個人情報にアクセスできるようにするために）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
15	34.9	障がい者のイベント開催を行う。
11	25.6	市内の障がい者団体を紹介する。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
15	34.9	障がい者を区別しない。
14	32.6	障がい者施設の見学会を開催する。
11	25.6	障がい者スポーツを推進する。

【災害時】

■課題：災害時において、福祉避難所を開設し機能させる
（福祉避難所の情報提供、移動手段の確保）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
16	37.2	優先的に福祉避難所に行ける制度をつくる（介護認定みたいなもの）。
14	32.6	市民に分かりやすいマニュアルを作成する。
4	9.3	IoT活用について※1（LPWA※2も含む）市内全域カバーする。

※1 Internet of Things…モノに通信機能を搭載させること。

※2 Low Power Wide Area…なるべく消費電力を抑えて遠距離通信を実現する通信方式。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
19	44.2	被災地（被災者）に学ぶ機会を設ける。

子ども・子育ての支援①

【通常時】

■課題：子育て中の親を教育する体制づくりを行う

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
15	34.9	児童相談所の充実、人材育成、権限強化、逃げない対応をする。
14	32.6	相談窓口を設置する。
11	25.6	子どもと一緒に参加できる講演会を開催する。
3	7.0	市の健康づくり課が親を教育する。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
24	55.8	じじばば世代との交流を持つ場所をつくる。
19	44.2	ネグレクト等の早期発見をする。
6	14.0	子ども会が子育て中の親を教育する。

■課題：子ども（小児）医療機関を充実させる

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
18	41.9	小児科が少ないから小児科を増やす。
10	23.3	人口が多くなるような市の政策をとる。
10	23.3	#7119以外につながる古河市の相談用電話を設置する。
2	4.7	医者を増やす。

【災害時】

■課題：他人に遠慮なく過ごすことができる避難所の整備をする

(子どもが声を出してもいいように、プライバシーの保護がなされるように)

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク (✓) をおつけください。

数	%	アイデア内容
31	72.1	(避難が) 長期化する時に、子どもたちが過ごせる場所を決めておく。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな(市民としての役割が果たせそうな)項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(2つまで)

数	%	アイデア内容
19	44.2	児童書、おもちゃを避難所に用意する。
18	41.9	親以外の人と接する機会をつくる。
9	20.9	子どもの様子に合わせて、「厳しく」「優しく」を使い分ける。
3	7.0	短い言葉が書いてある本を選んで子どもを教育する。

子ども・子育ての支援②

【通常時】

■課題：子育てと仕事が両立できる環境づくりをする（育児休暇取得の促進を含めて）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
11	25.6	保育園等施設を充実させる（待機児童ゼロ）。 ※働くには子どもを預ける場所が必要であるため。
8	18.6	学童保育を充実させる。※仕事と子育て両立のカギを握る。
5	11.6	企業などに理解と協力を求める。
5	11.6	学童（児童）クラブの待機児童を無くす。
5	11.6	学童保育の職員の手当てを充実させる（なり手の確保）。
4	9.3	育休取得率に応じて、税から企業に報酬を与える。
2	4.7	働く親の安定した収入を保証する。
1	2.3	市役所職員が率先して取得する。
0	0.0	市からの助成金を多くしてもらう。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
17	39.5	職場に子どもを預けられる場所を設置する。
11	25.6	男性の育児休暇取得を推進する。
6	14.0	職場に保育所の設置をする。
4	9.3	IoT※1を活用する。※子どもの見守りが可能。
4	9.3	育児休暇の完全実施をする。

※1 Internet of Things…モノに通信機能を搭載させること。

■課題：子どもの居場所づくりをする

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
12	27.9	やんちゃ森と駅前わんぱく広場のいような施設を増設する。 ※ママ友の情報交換の場ともなる。
11	25.6	小中学校等の空き教室を子どもの居場所にする。
6	14.0	児童館の建設をする。
5	11.6	社会福祉法人運営の屋内パーク（小山市にある）といった施設をつくる。
4	9.3	子ども食堂の充実を図る。
2	4.7	学童保育を統一化する。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
30	69.8	子どもの安全安心を確保するため高齢者等の協力を得る（高齢者の生きがい対策にもなる）。
11	25.6	鍵っ子にならないように、学校が終わり高齢者と一緒に過ごせる場所をつくる。 ※公民館、集落センターの活用を行う。
10	23.3	地域の見守り隊の活用で子育て支援をする。
10	23.3	元気な高齢者が施設等を利用して子どもたちと一緒に過ごす。
4	9.3	宿題を少なくし、遊びの時間をつくる（学校の一環として）。
0	0.0	老人ホームが子育ての協力をする。

【災害時】

■課題：乳幼児用の食品や衛生用品等の避難所の備蓄を推進する
（ミルクやオムツ等で不便がないように）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
20	46.5	小児科医師との連携を図り、市、災害時の医師会との医療協定を図る。
16	37.2	公の施設の相互利用をする。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
23	53.5	避難所に乳幼児や障がい者等のエリアを設け、プライバシーに配慮したものとする。
17	39.5	各避難所において備蓄物資の目録を用意しておき、何があるか皆が分かるようにする。
10	23.3	保育所を避難所として活用できるようにする。
10	23.3	液体ミルク等、簡単に衛生的な備蓄を考える。外国のアイデア等を参考にする。
4	9.3	（避難所に）家庭ごとのしきりを設置する。

ひきこもり・マイノリティの支援①

【通常時】

- 課題：（ひきこもり、マイノリティ）と関わり合う機会を創出する
（例：交流、ふれあいなど）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
22	51.2	気軽に相談できる窓口をつくる。
14	32.6	家族がSOSの出しやすい場所を構築する（新しいタイプの電話相談室）。
5	11.6	ひきこもり、マイノリティの情報収集の場をつくる（広報、回覧板など）。
2	4.7	当事者向けのイベントを行う。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
18	41.9	外に行く機会だけでなく、その人のテリトリーでできる支援を講じる。
14	32.6	ひきこもりに原因があるので、無理強いしないで暖かく見守っているのもいい。
12	27.9	ご近所（3～5件）で小さい交流を重ねる。※次第に親しくなると話せるようになる。
10	23.3	チャットやLINE※1の交流を行う。

※1 LINE…スマートフォンといった情報端末を用いてメッセージのやり取りをするコミュニケーション手段。

【災害時】

■課題：災害時における（ひきこもり、マイノリティ）へのアクセスを容易にする

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
18	41.9	特に差別した眼で見ないで一緒に行動する。
15	34.9	家の中、家の外で安全な場所を提供するために、一緒に考える機会を設ける。
14	32.6	家族から（ひきこもり、マイノリティについての）情報提供をしてもらう。

ひきこもり・マイノリティの支援②

【通常時】

■課題：誰でも、どんな事でも相談できる窓口の設置と支援につながるしくみづくりを行う
(行政に限らない)

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(1つまで)

数	%	アイデア内容
25	58.1	途切れのない支援 (学校卒業後も) を実施する。
9	20.9	バックグラウンドとして知識がある人が動く (学校の先生等)。
8	18.6	ひきこもり課の設置を行う。

★アンケートに記載 (1名)

ひきこもり課のネーミングが露骨すぎるので何かトータルサポート課とか、自立支援課など違うネーミングの方が相談しやすいと思います。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな (市民としての役割が果たせそうな) 項目にチェックマーク (✓) をおつけください。

数	%	アイデア内容
12	27.9	家族のサポートを実施する。
12	27.9	ピアカウンセリングの場を設ける。
9	20.9	訪問系のサービス業者 (医療・介護等) を利用する。
8	18.6	民生委員との連携を行う。
7	16.3	個人でできる仕事を覚えてもらう (人とのつながりがなくてもよい仕事)。
6	14.0	自治会との連携を行う。
5	11.6	学校との連携を行う。
5	11.6	LGBTは恥ずかしいことではないことを深く学ぶ。
2	4.7	傾聴ボランティアの活用をする。
2	4.7	家の人が応援する。

■課題：ひきこもりやマイノリティ（LGBT含む）の人々への理解や知識を高める
（例：深めるための研修や啓もう活動等）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
14	32.6	子どものうちから人権教育を行う。
12	27.9	理解向上のためのリーフレット作成を行う。
9	20.9	有名人の講演会（活躍している人）を開催する。
5	11.6	教育現場での道徳教育を行う。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。

数	%	アイデア内容
30	69.8	ひきこもりもマイノリティも一つの個性であることをもっと知らせる。
9	20.9	学校で差別をすることなく関わる。

【災害時】

■課題：“猫の手活動”を展開する

（支援が必要な人々を把握し、具体的にこのような支援協力が必要かを共有し行動につなげる）

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
32	74.4	民生委員・児童委員といった関係機関との連携を図る。
2	4.7	秘密保護法を無くす。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。

数	%	アイデア内容
25	58.1	災害が起こる前から（“猫の手活動”のための）連携がとれるようにしておく。
12	27.9	（ひきこもりやマイノリティとの）信頼関係の構築を図る。
10	23.3	家族による（ひきこもりやマイノリティについての）情報発信をする。
3	7.0	地域との連携をとる。

我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展①

【通常時】

■課題：見守り合い、支え合いのコミュニティづくり、人づくり

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
16	37.2	子どもの頃から、共助の精神を教育する。
7	16.3	生活圏域の設定を行政区単位にする。
7	16.3	地域づくりのための講演会を開催する。
7	16.3	行政が仕事として世話役を引き受ける。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
20	46.5	目で見え、聞こえ、（見守り合い、支え合いのコミュニティづくり、人づくりを）身近に感じることができるようにする。
10	23.3	町内会で世話役をつくる。
10	23.3	働きかけの大切さを学ぶ、知る。
8	18.6	地域の強みは何でしょう？活用できるものを探す。

■課題：人と人とのつながりを構築する

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
19	44.2	行政区に入るメリットを知る、知らせる。
8	18.6	市民を自治会への加入につなげる。
8	18.6	共生社会を根気よく説得する。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
12	27.9	趣味のグループづくりを行う。
10	23.3	同じ目的をもって集まれる場所をつくる。
10	23.3	子どもの頃から、隣り近所で仲良くする。
9	20.9	目で見え、聞こえ、（人と人とのつながりの構築を）身近に感じることができる。
5	11.6	行政区に入っていない人に対する社会的排除を解決する。
5	11.6	自治会費の支払い方法を検討する。 ※年1回の支払い金銭面で苦しく支払いできない。
3	7.0	地域の強みは何でしょう？活用できるものを探す。

【災害時】

■課題：互いの顔が見えるつながりづくりをする

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
16	37.2	要介護者の救助、連れ出し体制を構築する。
12	27.9	支え合うためのシステムづくりをする。
11	25.6	自治会加入の有無にかかわらず（支え合いの）システムづくりをする。
11	25.6	支え合い見守りマップを作成する。
8	18.6	自治会で集まって話し合いの場をつくる。

我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展②

【通常時】

■課題：より広い地域のつながりづくりをする

(近くはつながりがあるが、別な班の住民とのつながりが薄い)

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(1つまで)

数	%	アイデア内容
13	30.2	大学を誘致し古河市で生まれ育つ環境づくりをする。
4	9.3	コミュニティ保護法をつくる。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな(市民としての役割が果たせそうな)項目にチェックマーク (✓) をおつけください。(2つまで)

数	%	アイデア内容
14	32.6	地域づくり、まずはあいさつの励行をする。
12	27.9	近所同士で声のかけ合いをする。
9	20.9	自治会ごとに集まっておしゃべりできる場所(無料)をつくる。
8	18.6	数班(20名程度)で防災訓練を行う。
4	9.3	自治会にサロンとして利用できるようにする。
3	7.0	最低限、となりの家の状況を知っておくようにする。
2	4.7	班長同士のつながりを強くしてもらう。
2	4.7	運動会を行う。
2	4.7	家族ごとの名前入り地図を全員に配る。
2	4.7	新住民と旧住民の食事会(飲み会)を開く。
2	4.7	アパート入居者や新住民が参加すると何か得する券がもらえるようにする。
2	4.7	自治体で2回/月程度、無料のランチ会を行う。
1	2.3	まずは、向こう三軒両隣りで飲み会を行う。

【災害時】

■課題：自助と互助を徹底させる

○行政への要望が強いと思われるアイデア

※特に重要であると思われる項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（1つまで）

数	%	アイデア内容
14	32.6	災害などの研修会をより多く開催する。
10	23.3	防災訓練と防災マニュアルの作成（役割分担を明確に）をする。
8	18.6	要救護者マップを作成する。
4	9.3	防災士資格取得の補助を行う。
4	9.3	地域（自治会）に防災大臣を置く。
3	7.0	個人情報保護を緩やかにする。

○市民の役割が期待されそうな課題解決のためのアイデア

※課題解決につながり、且つ、実現できそうな（市民としての役割が果たせそうな）項目にチェックマーク（✓）をおつけください。（2つまで）

数	%	アイデア内容
19	44.2	近隣とのつながりを強くする。※台風19号の例にもあったように。
15	34.9	家族同士で、（災害時に）どこに逃げるか考えておく。
10	23.3	地域は地域住民が協力して守る（共助）。
8	18.6	日頃から移動手段のすり合わせをしておく。
5	11.6	自助（自分のことは自分で）を行う。
4	9.3	自治会内のお助け隊を結成する。
3	7.0	老若男女、役割を全ての人に分担する。
1	2.3	隣りの家人と手を握り、全員で逃げる。

アンケート自由記述

■高齢者の支援について

- ・支援活動ができる人（能力、気力、体力）を自治会やコミュニティから人材発掘に組織化したらどうか。
- ・どこの町内も高齢化社会なのですが、元気なお年寄りが多いので、比較的支援についても問題はないのですが、できる限り集いのできる場所を設置できるようにしていきたい。
- ・地域の仲間づくりも大切だと思うが、長く人生を生き抜いてきた人たちの考えを一つにまとめることは大変なことだと思う。あまり施策にこだわらず、対応していくことも重要ではないかと思う。
- ・女性はずき合いが上手な方が多いが、仕事人間だった男性は定年するとつき合いが一気に減る気がする。仕事が自尊心だった方への支援が必要。
- ・特に一人暮らしの見守り体制。民生委員、ケアマネジャーの充実。
- ・国の指針に基づいて広まっていると思うが、高齢者の施設の方々が基本の場所作りに等にもっと積極的に取り組んで頂き市民にサポートしてもらいたい。
- ・一口に高齢者といっても、十人十色で人それぞれに違った人生のあり方を望んでいます。一日中読書好きな人もいれば、一日中おしゃべり好きな人もいます。其の個性に見合った支援の為、人格を見極める事も大切です。
- ・普段でも災害時でも、誰かがとうのは難しく、うまく機能しないと思いますので、何でも役割をきちんと決めておき、責任をもって支援を行う方がいいのかなと思います。
- ・災害時には特に一人の方だけを手助けすることができないのでどうしたらよいか困りました。
- ・元気な方であっても長距離の移動が困難や軽度認知症であったりと、何かしらの支援が必要だと思われる人はたくさんいます（本人自覚ない人もいます）。そのため災害時はもちろん日々のゴミ出しや移動手段などに町内会で困り事がないかの話し合いや協力、援助してくれる方の確保は必要だと思います。その人の生活水準は格段に上がり、地域でのコミュニティも活発になり連携もできてくると思います。
- ・これから一人世帯が増えていくと思いますので、何か困りごとがあったら気軽に声かけができれば良いと思います。
- ・やはり移動手段で困っている方が多いようです。
- ・介護保険などの制度に該当しない高齢者のニーズは、「ちょっとしたことを手伝ってほしい」ということではないかと日々感じています。例えば、電球を取り替える、手に持てない少し大きい家電品の購入時のお手伝いなど、これまでできていたこと、手が届いていたこと等、ほんのちょっとしたことが難しくなっています。古河市は、地域住民のみまもりあいなど市民に期待しています。その延長にもなるように高齢者世帯や75歳以上の一人暮らし世帯などへの支援として、その担い手を行政区単位で募り、古河市独自のサービスの

確立を行政に期待したいと思います。

- ・2025年には65歳以上の高齢者5人に1人は認知症になる見込みとのことだが、認知症のケア技法である「ユマニチュード」を認知症サポート養成講座だけではなく、小中学生にも実施してはどうか？（先例、福岡市） ※高齢者パワーの利用は、高齢者の生きがい対策、支援の一つでは。
- ・実際に高齢者が集まる場所、高齢者施設などに直接伺い、意見を求めた方が市民の意見を抽出できると思います。
- ・見守り電話等、孤独死の方がだいぶあると思う。これに対しての対策を。

■障がい者の支援について

- ・直接的な意見を求めるために、当事者から話を伺えるとよいと思います（支援を受けるのは当事者なので）。
- ・まず、人間教育の強化から始めてはどうか（子どもから大人まで）。さらに、“おせっかい”な人づくりも必要かも！
- ・まだまだ障がいに対しての知識やそれに伴うボランティアなどが十分でないと思います。幼少期から教育していくことで、学校内にも発達障がいといった児童などにも個々で対応できる能力が備わると思います（それが成育に伴い、培っていくものみたいな…）。
- ・両親又は片親にも支援してほしいという声が上がってこなければ、むやみには支援できないので、家族からの要望があればできる限り支援していきたい。古河市内にどのくらいの世帯数があるのか解らないか。
- ・普段でも災害時でも、誰かがというのは難しく、うまく機能しないと思いますので、何でも役割をきちんと決めておき、責任をもって支援を行う方がいいのかなと思います。
- ・障がいの種別、度合いによって違いがあると思うので、これをひとくくりにするのは難しいと考える。
- ・障がい者＝施設というイメージがまだまだあるようで、障がいをもつ方の多様な生き方についてもっと啓発されるべきと思う。
- ・今元気でも事故や病気でいつ障がいをおうことになるかもしれません。特別でないと意識しあうことが大切だと思います。
- ・日常の生活でも避難所でも、食事、睡眠、トイレなど健常者を想定して作られている所が多々ある。小さな施設でもまず第一に障がい者に優しい施設であって欲しい。
- ・支援する人の手が足りないのかなと思います。ただ、障がいの重さによって手を出すことができないと思います。
- ・国で守る体制を。
- ・市民の役割として期待されそうな課題解決のためのアイデアの一つに「障がいに対する正しい理解をする」という項目がありました。私は、まずは行政に、特に健康福祉部にあるすべての課で勤務されている職員に対して正しい理解が必要だと考えます。

以下の内容は、こども福祉課で実際にあったことです。

私の長男は、自閉症の疑いがあると医師より診断され、5歳の時から定期的に養育を受けています。利用している認定こども園では加配の先生がつき、色々な方々の支援があるがゆえ、本人が感じている社会的障壁を解消できている部分が多くあります。ある日、園より、障害児支援の助成金の申請とするために診断書が欲しいと言われました。どのような内容のものが不明確だったため、私が直接こども福祉課に問い合わせました。すると、信じがたい発言が、役所の担当者よりあったことを覚えています。女性職員は「今は、障害は治ったのですか」と言い、男性職員は「この事業の申請を行うのであれば、障害の程度をはかるものが欲しい」「児相で療育手帳の対象にはならないと言われているのであれば、事業対象外になる」と言い、障がいに対する正しい理解があるとはいいい難い発言でした。さらに言うと、身体障がいの程度を知的障がいのものさしで測ることができないのに、息子の発達障害の程度を精神障がいを身体・知的障がいと同程度であると証明するものとも案内を受けました。自立支援法が総合支援法に変わり、障害の程度を表すのではなくなったと私は認識しています。また、障がい者の定義は、身体障害、知的障害、精神障害となっており、精神障害の中に発達障害も入ります。児童福祉法でも、この3つの障害を定義しておりますが、古河市の上記に関する例規集には精神障害児の記載がありません。その理由を尋ねると、「県からのものをそのまま引用した」と窓口で説明を受けました。養育手帳を所持していてIQが69だからと言って、必ずしも支援が必要であるということではなく、手帳の有無で色々なことが対象かどうか決まるのであれば、手帳を所持しているから支援が必要で所持していなければ対象外と言う役所（この場合、こども福祉課）の偏見にすぎず、その誤った知識や理解で、社会的排除につながりかねないのです。また、本当に必要な人に税金が使われているのかどうかさせ疑いのまなざしに変わってしまいます。

私の息子はIQ131ですが、児童発達支援を利用させていただいています。この件も男性職員は「ぐるんぱの利用は親が希望して利用するため、障害福祉サービス受給者証はその他に該当しない」と言いました。障害福祉サービスは、国は法や基準を定め、市町村で実施され、そのためには市町村長の認定を受け、利用するものと私は理解していました。結局、男性職員は「園は助成金がなくても加配を外さないと言っているのだから、それでいいのではないかと」突き放しました。このように、役所で特に窓口業務に就く職員に正しい知識と理解がないため、息子のように手帳を所持していないが支援が必要な人間は、古河市によって社会的排除に遭いかねないと言う状況です。

役所の窓口の発言は、市民にとってとても影響力が強いものとなります。その強みを生かして、正しい理解をしたうえで発信することで、市民が関心を持ち、行政と共同して障がい者の支援につなげる一歩になるのではないかと考えており、行政にも正しい理解を期待します。

■子ども・子育ての支援について

- ・市の健診などで、直接的な意見を伺っても良いかと思います（事情を知るためにもアンケート、困り事やどのような支援を求めているかなど）。
- ・親の教育。
- ・親（両親）への“子どもを育てる教育”を子どもの頃から社会人まで社会教育を行ってはどうか！親としての責任と義務が希薄となっている。
- ・子どもを持ちながらも、親自身も自己実現できるようにすることが必要。
- ・三食お腹いっぱい食べられる・楽しく勉強できる・思い切り遊ぶこともできる事、この条件があればしあわせに子どもを育てられる。プラス親がいつも笑顔なら尚更良い。そういう家庭環境になる様、物心両面から支援したい。
- ・経験豊かな高齢者に地域の子どもたちの見守りや昔遊び、地域の歴史や文化、慣習などの指導をして頂く仕組みづくり、子ども支援をしていただければ高齢者の生きがい対策にもなるのでは。国では育児介護休業法を改正したが、男の育児休暇取得を促進し子育てしやすい環境を作るため、企業などへの理解と協力を求めるとともに市は率先して男性の対象職員に休暇を与えるべき。
- ・すでに子育ての終わった親などから、ご意見が気楽に聞けるような地域でそんな機会が、場所があったらいいかと思うが。
- ・教育費、医療費の無料化。
- ・行政が各種の子育て支援策を講じているが、これが出生率の向上につながっていないのが現状である。今の男女の結婚観の捉え方にも大きな相違があると思うので、まずはその辺りのところから…。
- ・例えば、地域パトロール隊などで朝、登下校時の見守を行う、などその状態を教員に伝えるとか小学生に限りますが、一番事故が起きやすいので、安全に登下校できるようになればと思います。また、現在学校が休みなので、子どもたちと一緒に遊ぶとか見守りをするとか、ケンカしていたら仲裁に入るとか…、今の状況の中で柔軟に対応できる対策をした方がいいと思います。
- ・今は共働きが当たり前の時代なので、安心して子どもを預けられる環境があればいいと思います。どうにもならず仕事復帰を諦める人も多いと思うので。
- ・子育てに困っている親たちの声が届くと良いと思っています。
- ・『障がい者の支援について』で書いた内容とも重なるので、その部分は省略します。近年は、夫婦と子供から成る世帯が増えているように感じます。児童相談所までは遠く、子育ての悩みを気軽に相談する場がないということに、古河市に転入して感じています。児相では、ペアレントトレーニングを半年にわたり行う等の取り組みがあり、それにとっても助けられました。周りには同じように子育てに悩む親は多く、長期的なペアレントトレーニングや気軽に参加できる親同士の交流の場等の取り組みは、需要が高いと思います。

■ひきこもり・マイノリティの支援について

- ・ひきこもりとマイノリティを同じ枠での捉え方では難しいと思います。それぞれ定義も違うので、共通の支援をあげるのは、難しいと思います。
- ・個人情報の問題があり、あまり積極的には、その家庭によって様々な問題があるだろうから、支援方法が難しい。
- ・とても微妙な特別な内容なので、専門家の助言や事前の学習が必要だと思う。いきなり無責任に意見を言うのは違うと思います。
- ・とても難しく、私達ではどうしようもできないと思っています。
- ・難しい課題だと思います。障がいと同じで正しい理解が行政にも市民にも必要と考えます。市民が理解しやすいリーフレットを段階をおって作成してほしいです。
- ・とてもデリケートな問題と思う。家族が相談しやすい、抱え込まない環境、システムづくりが大切。
- ・違いを認め合う教育から始めてみては！
- ・学校での道徳（思いやり、友情）教育。
- ・ひきこもり、マイノリティの人と腹を割って対話できる人をつくる（市で）。
- ・8050 問題があり、親もどのように接したらいいのかわからず悩んでいる方も多いと思います。相談することも恥ずかしい世代なのかもしれませんが、介護保険と同様に普及するような活動をしていくのはどうかな、と思います。
- ・社会的な参加や就労就学も勿論大切であるが、成長してから「実はひきこもりだったんです」と言う志を高く持った人等に遭うことがある。無理強いしないで静かに見守った方が良い場合もある。
- ・今はネットなどでも色々な情報が得られるので、正しい情報、入りやすい方法でお互いの理解が深められるようにできればいいと思います。
- ・カウンセラー等をつけては。

■我が事、地域丸ごとで支え合うコミュニティの形成・発展について

- ・自治会、町内会のあり方自体を現代のライフスタイル（共働きや勤務体制など）に合わせられないと、コミュニティの形成も進まないと思います。
- ・世話役活動の大切さを生活の場から学ぶことをどう伝えることができるか、は自治会活動に参加させることからかな？
- ・地域ごとに集会所やコミュニティハウスでもあれば、絶対に有利ではしょうが、ない町内はコミュニケーションも難しいのかな。
- ・隣近所仲良くするために、町内会、世話役、見守りボランティアをつくる。
- ・町内会総会等の集まりでも若い人と高齢者とは生活の仕方も考え方も違うので、所謂（ジェネレーションギャップ）地域丸ごとは難題ですが、少しでも価値観を近づける様、お互いに努力あるのみ、思い遣いの心を育てれば旨く行く可能性がある。

- ・災害に備え、家族、近所の方々等と対応について、話をしておくだけでも、何かあった時に違うと思います。
- ・大地震の発生が叫ばれている中で、異常気象による自然災害が多発しているが、自助・共助の精神のもと、地域の連帯感を醸成し地域力を高めることの重要性を広く市民に訴える必要性大。
- ・特に独居（男性）の場合、地域で何かを行うことすら行動しない人もいます。アパートに住んでいると隣の住民もわからないとかでは形成につながらないと思うので、民生委員さんとか町内会での顔の見える関係づくりが大切なのだと思います。それが災害や救急車を呼ぶとか何かの時に役立つと思います。
- ・現在行政区の役員をしているが、何でも行政区・自治会に求めることは難しいと思う。今は事業を消化するだけでいっぱいであることを認識してほしい。
- ・行政区に加入していないとお互い話す機会も少ないので、なるべく加入してほしいと思います。しかし役員を強制したりすると脱退してしまうケースもありました。難しいです。
- ・昔にいたような良い意味でのおせっかいな人が少なくなっている気がした。
- ・私達が子どものころと比べて各世代、一緒に何かをするという事がないと思います。ただ私の学区では、朝の立哨でおじいちゃん達が出て声をかけていると、ふだんでもあいさつができるようになっています。うれしいです。
- ・市民の見守り活動を期待しているというような内容の話しが第2回の地域福祉計画の市町のあいさつ部分に書いてありました。しかし、見守り活動や地域防災は小規模な自治会相当を生活圏域に設定するというようなことが何かの協議で言われていたと、大学で学んだのですが、古河市は4つの生活圏域です。
8年前の関東大震災、4年前の鬼怒川の氾濫、去年の台風災害で防災に対する意識が強くなってきていることは市民がもつストレスだだと思います。今こそ、具体的に災害時の支援にもつながる具体的な見守り活動等を構築し、市民に浸透させることを行政には期待したいと思います。最初から全地域ではなくても、行政には、（確か福岡県のように）モデルとなるいくつかの地域を作り、具体的に取り組んでほしいです。
- ・コミュニケーションのとれる機会が少なくなっていることが原因と思う。

■その他、社会福祉について

- ・地域力を発揮させるために、行政の縦割り体制を大胆に見直すことが大切ではないか。人の命に関することが多くの部署が関わる事なく、一部署で完結するような体制指導がまずは必要ではないでしょうか！
- ・福祉問題については、住民に広く知ってもらう為に、役所の方の説明や講演等を多く、企画してもらえらるだろうと思う。参加者募集を定期的の実施してみてもどうでしょうか。
- ・社会福祉課のみで対応するのはどうか。テーマが大きく、公的機関（警察、消防、学校）や市役所内でも他の課も動員すべきでは？（「ぎょうせい」に丸投げしている。他の課は協

働課のみ)

- ・環境を良くするそれが福祉につながる。
- ・市民の苦難に寄り添い又少しでも軽減する為の担い手になるのは、行政の皆様と市民一人一人の「優しさと勇気」が必要になってきます。市民の命と快適な暮らしを守るためにも今こそ全ての人々が安定した生活環境を整える為の努力を致しましょう。地域福祉の重要さを痛感しました。
- ・どの分野でも行政へ要望を出しても、実現されないことが多いという声が多く聞かれました。このワークショップの開催を機の一つでも沢山の要望が実現されることを希望致します。
- ・学校における人権教育や福祉教育の充実、ボランティア活動の推進、地域、コミュニティ活動への助成。
- ・ボランティア精神が基本に有る、今回の公募の方々の様な皆さん（意識の高い方々）を中心に事業を進めてほしい。
- ・通信手段にSNS利用は危険。
- ・高齢者で言えば、アナログが当たり前で現代のネットを応用した操作などはわからないと思います。若い世代が多く住む地域、高齢世帯が多く住む地域、その地域ごとに課題はあると思いますが、特に問題となることをピックアップして行政ごとに連携し合う。横のつながりが必要だと思います。
- ・今は自治会等に入らない、入りたくない家庭が増え、地域のつながりは薄くなっています。昔ながらの自治会中心の考え方ではなく、若い人はネットを活用する等、それぞれの方法で考え、それをうまくまとめる様なことをしないと難しいのかなと思います。
- ・今回のワークショップにおいて様々な業種、立場の方々から多角的な意見が聞けました。ここで話あったことを行政の中で何が必要で、何が大切かをきちんと仕分けして頂き、具体的な取り組みとして市民に発信して頂きたいと思います。私たち地域住民も、自助、共助、共生社会、コミュニティ作り等を意識し、地域の中で今回の内容等を日頃のコミュニケーションの中で伝えていきたいと思います。今回のこのような状況の中、企画・運営が大変だったと思います。参加させて頂きありがとうございました。
- ・災害時を想定した「訓練」ではなく実際に避難「体験（物資などの配給をする側、される側の経験知として活きると思う、避難先での物資やその環境での寝泊りなどの体験）」をする機会が得られれば、体験を元に自分には何が足りていなかったか、避難先での不便さ不自由さに対してどのサポートしてほしいのか等の課題が見えるかもしれない。市への要望等のアンケートを取り、今後の体制の充実につなげる。自分で準備していた災害時用の避難グッズが役に立つのか、不足しているのか考える場にもなり、避難体験先で市の防災担当の方等の専門家からの公園やアドバイス等を頂ければ、防災意識の高まりへとつながるのではないかと思う。各地域毎に実施し、最寄りの避難所で行うことにより、顔見知りになったり、交流を深める場になったりして、いざ災害が発生した時にお互い協力し合え

たり、ギスギスした空気感が緩和されたりするかもしれない。

- ・行政区への加入についてですが、私が住む女沼は半数の世帯が行政区未加入です。行政は加入を勧めていますが、加入するメリットがよくわかりません。加入の有無にかかわらず、今回のワークショップでテーマに上がった内容なども含め、未加入者にも情報が伝わるように何かしらの対応を検討していただきたいです。行政や地域の活動を目で見て感じることも、市民の見守り活動への期待につながるかと思います。古河市にはどのような活動があり、どのような取り組みがあるのか等、1人でも多くの人を知ることができるような取り組みが欲しいです。

古河市地域福祉計画
古河市市民ワークショップ報告書

令和2年3月
古河市

〒306-0221 茨城県古河市駒羽根 1501
古河市役所 健康福祉部 福祉総務課
TEL : 0280-92-5771
FAX : 0558-92-7564